

ビジョン

九州工業大学をハブに、学术界から創出される革新的な技術の社会実装を実現するイノベーション創出大学モデルを確立する。このために学术界のディープテックシーズを社会実装可能な技術に昇華させるための「ギャップ領域で必要な実務を担う仕組み」を整備し、国内外に開放することで起業や技術移転という形で学术界から産業界にシームレスに研究成果を接続する社会実装バリューチェーンを形成する。

学术界の課題

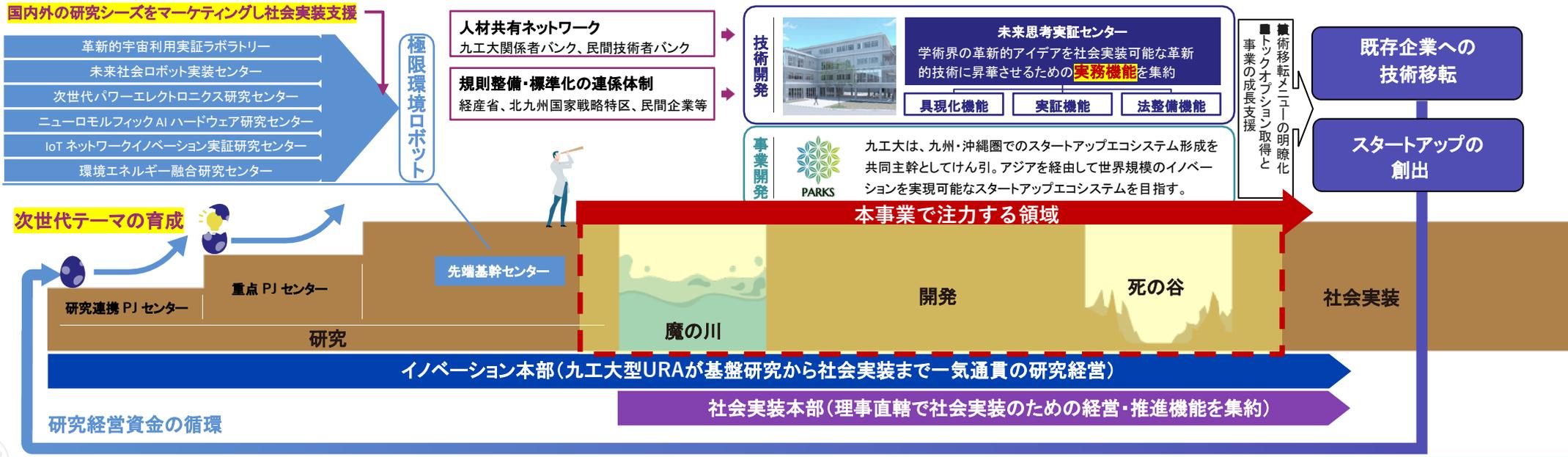
- ディープテックの社会実装を担う技術開発人材が組織内に不足
- ディープテックを社会実装させるための社会科学とテクノロジーの融合人材が不足
- ホワイトリスト志向(規則に書かれていないとできない)の運営志向のため迅速・柔軟な研究経営が困難

九工大が担うべき理由

- 建学から一貫して「モノづくり」「ひとづくり」にコミット
- 7年連続世界一の宇宙技術、世界大会6度優勝のロボット技術等
- 研究経営のできる九工大大型URAの育成・活躍
- 技術職員が充実・国内 Top10 常連の産学連携力
- PARKSの共同主幹機関として九州・沖縄圏のスタートアップエコシステムをけん引
- 30代を副理事に登用するなど迅速で柔軟な組織経営が産業界から評価

九工大の課題

- 研究者が社会実装活動に従事することで基盤研究への従事時間が減少
- 知的財産権の経済価値化に課題有
- 社会実装フェーズの支援体制不足により研究フェーズ止まりの活動が散見
- プログラムマネジメントのできる工学系人材不足・技術職員の7割が50代
- 社会科学とテクノロジーの融合が可能なトランジションマネジメントに関する教育が不十分



研究大学としての経営改革

- 事務、技術、高度専門職員を統合、MBOによるスキル・責任に応じた報酬体系に整理し、多様な活躍を実現
- 研究経営のできる九工大大型URAをクローポで措置するなど連携機関の垣根を超えた研究経営の実現
- 社会連携本部を設置し、これまで複数の部門に分かれて管理されていた社会実装支援機能を集約。社会実装の実務者を好待遇で雇用可能な人事制度を整備

自立自走可能なPJ創出のための3ステップ

Step1: プロジェクト組成

Step2: 学内特区化
第一弾として、マイクロ化総合技術センターを認定

Step3: SPC化
第一弾として、AI人材育成を目的としたKyutech ARISEを設立

第一弾として「極限環境ロボット」の社会実装拠点化

博士学生等を社会実装を担える人材として育成

社会実装実務者を抱える未来思考実証センターの整備

	既存の取組	本事業で推進する特徴的な取組み
社会実装力強化	<ul style="list-style-type: none"> 7年連続運用数世界一位の超小型人工衛星の開発力と世界的な評価環境 サービスロボット世界大会6度優勝、水中探査ロボット国際コンペティションで準優勝などのロボット開発力 	<ul style="list-style-type: none"> 2024に九工大とJAXAで共同設置したCubeSatサロンで、大学や企業に対して超小型衛星の開発・運用等のコンサルティングを実施し、国際的な宇宙ミッションへの参画数を増やす。 九工大、長崎大、東京大で連携し、実海域技術開発研究推進センター(仮)を設立し、海洋分野の地球規模の課題を解決。 九工大、北九大、北九州市と共同で、研究基盤協議会と連携し機関の垣根を超えたオープンファンシリティセンター構想を推進。 「宇宙・ロボット」「通信」の分野で組織的な連携を行う6つの機関(アジア3つ、欧米3つ)を重点連携機関として世界拠点化を推進。この6つの大学にイノベーションコーディネータを派遣するとともに社会実装向けジョイントプログラムを強化。 3つの国内VCとの包括連携体制を起点にファイナンス体制を強化。 アメリカやシンガポール等の世界的インキュベーションPGとの連携強化。 実証環境との組織連携による社会実装活動の推進。
人材育成・獲得	<ul style="list-style-type: none"> SPRINGプログラム等により65名の工学博士学生を育成。PG卒業生が社会実装人材として九工大に着任 アントレ教育推進室を設置し、アントレ教育を学部で必修科目化。 	<ul style="list-style-type: none"> 九工大、北九大で連携し、社会科学とテクノロジーの融合研究と教育を推進するトランスディシiplinary教育研究センター(仮)を設置。 技術系職員の高度化を推進するために、東京工業大学と連携した育成プログラムを推進。 北九大、長崎大、PARKSとの連携や起業支援プログラムへの参加によりマネジメントのできる工学博士人材(CTO)の育成を推進。 技術と事業の開発人材を学内にプールするとともに、民間技術者バンクとの連携を強化し、社会実装を加速化。 リカレント・リスキリング教育の積極推進による地域技術人材のディープテック領域での活躍促進。 共同研究講座のスキームを活用したクローポ等による産業界からの社会実装人材の集積。 九工大関係者データベース等を整備・活用し、九工大への思いの強い多様な人材にアクセス。